

# 手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成28年度第1回)

日時：平成28年6月28日（火）午前10時～11時30分  
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

## 3 報告事項

- (1) 委員の委嘱について（資料1）
- (2) 参加チームの申込み状況について（資料2）

## 4 議 題

- (1) 議案第1号  
第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について（資料3）

## 5 その他

- (1) 協賛の募集について（資料4）
- (2) 今後の日程について（資料5）
- (3) 平成28年度予算及び平成27年度決算について（資料6）
- (4) その他

## 6 閉 会

# 資料 1

前任の人事異動等に伴い、以下の4名の方を平成28年4月27日付けで委員に委嘱しました。

- ・公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 戸羽 伸一 事務局次長
  - ・鳥取県教育委員会 寺谷 英則 教育次長
  - ・鳥取県高等学校長協会 依藤 典篤 会長
  - ・鳥取県立鳥取聾学校 三王寺 孝子 校長
- (なお、平成28年4月1日付けで鳥取県福祉保健部長の藪田が新しく委員長に就任。)

## 手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議委員名簿

(平成28年4月27日現在)

役職	所属・役職名	氏名(敬称略)	委嘱日
委員長	鳥取県福祉保健部長	藪田 千登世	— (平成28年4月1日)
委員	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	平成27年2月23日
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	平成27年2月23日
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長	戸羽 伸一	平成28年4月27日
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	平成27年2月23日
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	平成27年2月23日
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	平成27年2月23日
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	平成27年4月20日
	鳥取県教育委員会 教育次長	寺谷 英則	平成28年4月27日
	鳥取県高等学校長協会 会長	依藤 典篤	平成28年4月27日
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	山内 晃	平成27年4月20日
	鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子	平成28年4月27日

## 参加チームの申込み状況について

平成28年6月27日現在

## 1 参加申込み状況

種別	申込みチーム数(高校数)
新規校※	18チーム(19校)
昨年参加校	21チーム(20校)
合計	39チーム(39校)

※ 新規校とは、過去の2回の大会で申込みのなかった(今回、初めて申込みのあった)高校のことをいう。

## 2 参加チーム数の見込み(申込み期限: 6/30)

種別	申込みチーム数(高校数)	昨年申込み数
現在申込み数	39チーム(39校)	—
昨年参加校のうち、 参加意向あり	11チーム(11校)	—
新規校	?	—
合計	50チーム(50校) + $\alpha$	47チーム(50校)

※ 現在のところ、昨年の47チーム(50校)を超える申込みがある見込み。

※ 最終的な参加申込み数(昨年の申込みをどれだけ越えるか)は、今後、新規の高校からどれくらいの申込みがあるかによる。

## 3 参加申込み校

## (1) 新規申込み校(18チーム(19校))

学校名	都道府県名
鶴岡中央高等学校	山形県(初)
松井田高等学校	群馬県(初)
大泉桜高等学校、立川ろう学校	東京都
藤沢総合高等学校	神奈川県
掛川工業高等学校	静岡県(初)
岡崎東高等学校	愛知県
海翔高等学校	愛知県
京都八幡高等学校南キャンパス	京都府
社高等学校	兵庫県(初)
聖心学園中等教育学校	奈良県
青翔開智高等学校	鳥取県
米子高等学校	鳥取県
萩高等学校	山口県(初)
高松南高等学校	香川県(初)
宇和高等学校	愛媛県(初)
神埼清明高等学校	佐賀県
唐津青翔高等学校	佐賀県
平戸高等学校	長崎県(初)

※ 初参加となる県が多くあった。

(2) 前回参加校 (21チーム (20校))

学 校 名	都道府県名
北海道美唄聖華高等学校	北海道
野津田高等学校	東京都
クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス	東京都
横浜南陵高等学校	神奈川県
田鶴浜高等学校	石川県
啓新高等学校	福井県
身延山高等学校	山梨県
安城生活福祉高等専修学校	愛知県
桜花学園高等学校A	愛知県
桜花学園高等学校B	
杏和高等学校	愛知県
八幡高等学校	滋賀県
京都府立豊学校	京都府
松原高等学校	大阪府
奈良県立ろう学校	奈良県
鳥取城北高等学校	鳥取県
境港総合技術高等学校	鳥取県
領北高等学校	高知県
嬉野高等学校	佐賀県
熊本豊学校	熊本県
真和志高等学校	沖縄県



第3回

全国高校生

# 手話パフォーマンス甲子園

## 実施計画



[主催]

手話パフォーマンス甲子園  
実行委員会

[共催]

鳥取県  
(公社)鳥取県聴覚障害者協会

[特別協賛]

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

[特別協力]

(一財)全日本ろうあ連盟



## 1. 目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。

## 2. 日程

日時：平成28年9月25日（日）9時30分～16時30分

場所：倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5）

（収容人数：最大1,503席（うち車椅子席8席、介助席6席））

【交流会 日時：平成28年9月24日（土）18時～20時

場所：鳥取短期大学・看護大学 体育館（シグナスホール内）

（鳥取県倉吉市福庭854）】

※ 大会参加者（出場チーム、司会・審査員・ゲスト、来賓等）一同が参加する立食パーティー

## 3. 出場チーム

予選審査を通過した全国の高校生による全20チーム

○応募期間：5月9日（月）～6月30日（木）

※ 予選審査動画の提出期限：7月25日（月）

○予選審査：8月9日（火）鳥取県庁で開催

※ 結果発表は、ライブ中継を行う。（当日夕方予定）

## 4. 演技内容

手話を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるもの。







## 5. 表彰

- ① 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。）
- ② 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。）
- ③ 3位（賞状、メダル、副賞を授与する。）
- ④ 審査員特別賞（賞状、副賞を授与する。）
- ⑤ 全日本ろうあ連盟賞
- ⑥ 日本財団賞

## 6. スケジュール

2月15日(月)	開催告知
3月18日(金)	開催要項(大会の詳細)公表
5月9日(月)	参加申込み受付開始
6月30日(木)	参加申込み締切
7月25日(月)	予選審査用動画の提出締切
8月9日(火)	予選審査会（結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チーム決定）
9月24日(土)	交流会、リハーサル（本大会と同会場）
9月25日(日)	本大会

## 7. 本大会日程


項目	内容	時間
開会式	主催者・来賓等あいさつ、選手宣誓、優勝旗返還、各種紹介	9:30~10:10
演技	チーム演技(10チーム)	10:10~12:00
昼休憩		12:00~12:50
演技	チーム演技(5チーム)	12:50~13:50
休憩		13:50~14:00
演技	チーム演技(5チーム)	14:00~15:00
休憩		15:05~15:20
ゲスト	ゲストパフォーマンス	15:20~15:50
表彰式	表彰、審査員講評、主催者あいさつ	15:50~16:30
閉会		16:30

## 8. リハーサル日程

項目	内容	時間
チーム	20チーム(1チームあたり20分)※ 最大延長 17:30	10:00~17:00
ゲスト	ゲストパフォーマー	18:30~19:30
主催者	開会式、表彰式	19:30~22:00

## 9. 司会

### ○演技司会

	<p><b>早瀬 憲太郎</b>（はやせ けんたろう）氏</p> <p>学習塾「早瀬道場」塾長 ろう者 学習塾「早瀬道場」を設立し、塾長としてろう児の国語指導等を行っている。 映画「ゆずり葉」の脚本・監督。 2015年3月まで、NHK Eテレ「みんなの手話」の講師として、長年にわたり出演してきた。 第1～2回大会の演技司会。</p>
<p>（未定）</p>	<p>※鳥取県ゆかりの芸能人（女性アイドル・女優。聞こえる人）の出演を想定。</p>


### ○総合司会

NHK鳥取放送局所属アナウンサー

⇒ NHK鳥取放送局に推薦依頼中。

※第1～2回大会は、同放送局の大木浩司アナウンサーが出演。

## 10. 審査員

<p>【審査員長】</p>	<p><b>庄崎 隆志</b>（しょうざき たかし）氏</p>
	<p>演出家・俳優 ろう者 19歳でプロ劇団デフ・パペットシアター・ひとみの旗揚げに参加。その後、代表・演出となる。 松山善三演出の『赤い椿の物語』出演。 『オルフェ』、『曾根崎心中』『遠野物語』主演など、俳優として表現方法を探求しながら演出・脚本も手掛ける。以来、全国各地780ヶ所で2000回以上、ヨーロッパ、アメリカ、アジア各地など海外14ヶ国で公演。 2005年、デフ・パペットシアターひとみ退団後も、公演プロデュース、そのかわら大学などでワークショップの講師としても活動。 2009年、映画『ゆずり葉』（全日本ろうあ連盟製作）主演。 2010年、横浜文化賞・文化芸術奨励賞の受賞など、多くの受賞歴があり、ろう者の俳優の第一人者として活躍中。</p>





## 忍足 亜希子（おしだり あきこ）氏

女優 ろう者

1970年北海道千歳市生まれの横浜育ち。生まれつき耳が聴こえない。

1999年に公開された映画『アイ・ラブ・ユー』でろう（聾）の主演女優としてデビュー。

第54回毎日映画コンクール「スポニチグランプリ新人賞」受賞。第16回山路ふみ子映画賞「山路ふみ子福祉賞」受賞。

映画『アイ・ラブ・フレンズ』『アイ・ラブ・ピース』『黄泉がえり』など印象深い演技を披露。ドラマ・CM・モデルとしても活躍。

著者『忍足亜希子と覚えるはじめての手話』（ナツメ社）、『愛聞こえますか？』（光文社）



## 小中 栄一（こなか えいいち）氏

全日本ろうあ連盟副理事長 ろう者

昭和29年（1954年）生まれ。7歳頃に聴覚障害となる。富山市在住。趣味は、読書（マンガも）、字幕付のテレビ番組を楽しむ。

〔現役職〕

一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事

（文化部、労働対策部、手話通訳対策部、事務局長を経て、現在は副理事長）

NPO法人ろう教育を考える全国協議会 理事長

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会 理事

富山県聴覚障害者センター 施設長

富山市聾啞福祉協会 会長



## 門 秀彦（かど ひでひこ）氏

絵かき 聞こえる人

ろうあ者（聴覚障がい）の両親を持つ健聴者。

両親との手話コミュニケーションの補足として絵を描き始める。

個展や国内外の学校、野外音楽フェス等でのライブペインティング、ワークショップ、講演の他、アニメーション作品の制作、ミュージシャンのアートワークを手掛けるなど、創作は多岐に渡る。ことばで会話することだけがコミュニケーションではないという思いから、「HAND TALK」という言葉を生み出しコミュニケーションの大切さを伝えている。

門秀彦HP：<http://www.kado4life.jp/>

Giraffant facebook：

<https://www.facebook.com/giraffant.room/>



## 南 瑠霞 (みなみ るるか) 氏

手話パフォーマー 手話通訳士 聞こえる人  
 手話ミュージカルや手話ライブ等を展開する“手話パフォーマンスきいろぐみ”主宰。きいろぐみメンバーは約30人。半数がろう者。  
 南 瑠霞は、NHK「LIFE～人生にささげるコント」「東京ディズニースーリゾート」など、各メディア・舞台に出演。ドラマ「オレンジデイズ」、ハリウッド映画「バベル」、モーニング娘。、ケミストリー、しまじろう関連ソング、上地 遊助等手話指導。



## 山田 衛生 (やまだ もりお) 氏

鳥取県合唱連盟理事長・全日本合唱連盟常務理事  
 聞こえる人  
 2002年県立高校音楽科教諭退職。その間、部活動で吹奏楽、合唱、管弦楽を指導、中国・全国大会に度々出場。1970年代よりオーケストラ、合唱等、地域の文化活動に携わり、1995,1998,2005,2014年県民による第九倉吉後援指揮者を務める。  
 2004年鳥取県合唱連盟理事長に就任、2008～2015年中国支部副支部長、2016年全日本合唱連盟常務理事に就任。

### ○予選審査会

上記6名の審査員のうち、以下の4名の審査員とする。

予選審査会審査員	
庄崎 隆志 氏 (審査員長)	ろう者
小中 栄一 氏	ろう者
門 秀彦 氏	聞こえる人
山田 衛生 氏	聞こえる人



## 11. ゲストパフォーマー



### 岐阜ろう劇団いぶき

昭和57年結成。全国ろうあ者大会の演劇祭典7回参加。平成7年世界ろう者会議の演劇祭典(ウィーン)に日本代表として参加。平成7年NHK東海いぶき賞受賞。平成8年岐阜県芸術文化奨励賞受賞。第9回岐阜市市民芸術祭演劇の部に初めて参加。平成11年国民文化祭・ぎふ99演劇祭(一般演劇)参加。平成12年第39回全国アマチュア演劇大会参加。平成13年全国障害者アート・フェスタ大阪参加。平成24年第25回岐阜市市民芸術祭演劇の部岐阜ろう劇団いぶき創立30周年記念劇団はぐるま合同公演。

## 12. 交流会ゲスト



### マカローニ

手話パフォーマーの高木里華(右)とヒップホップ・ダンサーのTAMA(左)の2名からなるろう者による女性ユニット。

タマの「マ」、タカの「カ」、聾(ろう)の「ロー」、2人で「ニ」。合わせて「マカローニ」。

2004年米国のデフ・ダンスグループ「ワイルドザッパーズ」来日時のワークショップで高木里華とtamaが出会い意気投合。「ダンス」と「手話」を融合創作するデフパフォーマーに。

二人とも、ろう者でろう者ならではの表現豊かな手話パフォーマンスが持ち味。

ハートフルなパフォーマンスが観る者の心を捉える。

飽くなき探求心と斬新なアイデアで、手話パフォーマンスのパイオニアとして進化を続けている。



## 13. 大会の観覧

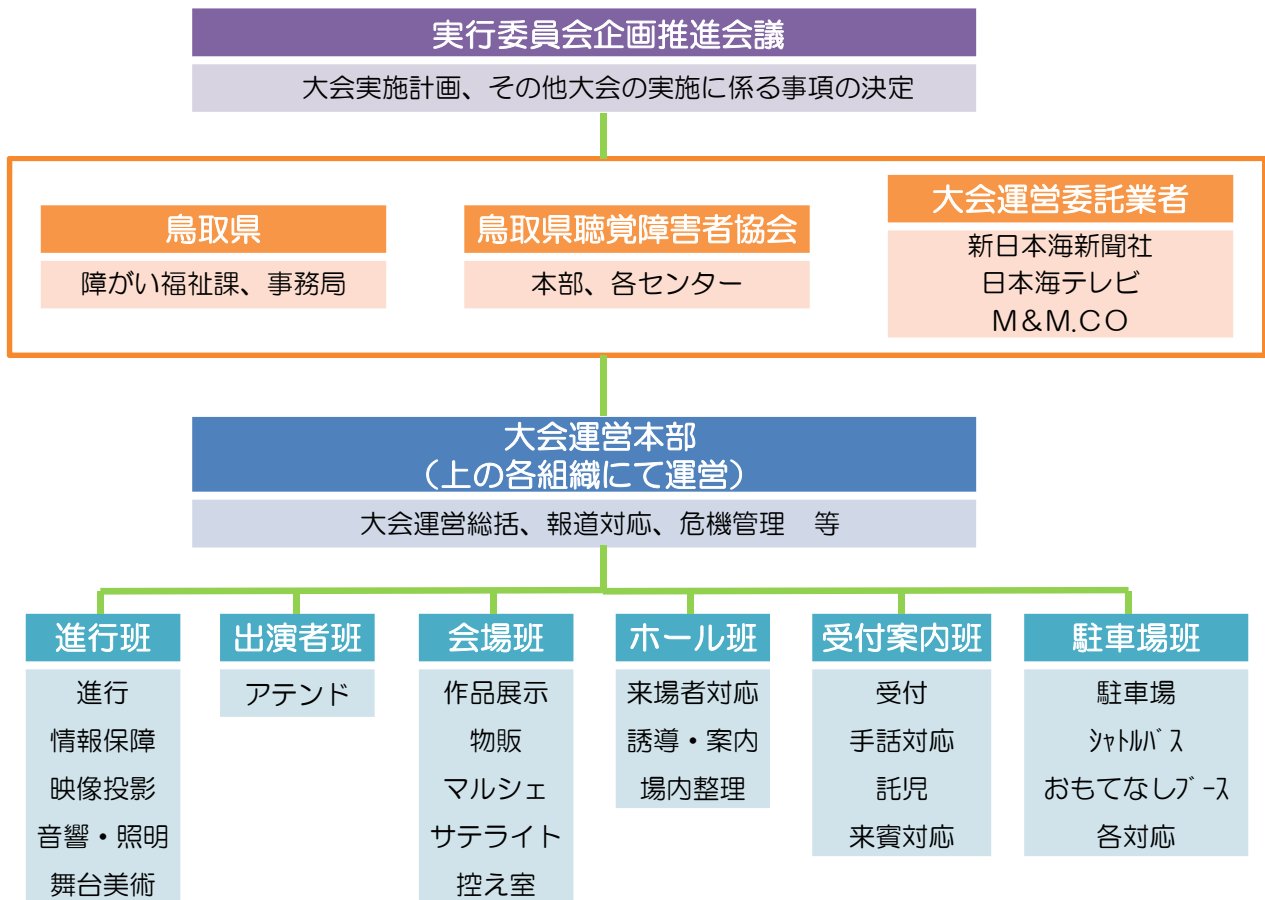
項目	内容
観覧方法	観覧自由（事前申込み不要）
入場料	無料
一般入場者	約950名～1,000名程度 （※昨年は461名。昨年の2倍以上の一般入場者席を確保する。）
サテライト会場	多くの入場希望者が来場し、会場に入場できない状況を想定して、施設内にサテライト会場を用意する。 ○場所：アトリウム（1階フリースペース） ○席数：300席（立ち見スペースも用意） ○設備：240インチのスクリーン、音響
ライブ配信	当日来場できない方を含め、より多くの方に大会を観覧いただけるよう、インターネット（手話パフォーマンス甲子園★動画チャンネル）上でライブ中継を行う。なお、CD音源を使用する場合、著作権について所有者の許諾が得られない場合は、音声を配信しない。

## 14. その他催し等

項目	内容
グッズ販売コーナー	大会公式グッズ販売コーナー 鳥取県聴覚障害者協会販売コーナー
あい・サポートマルシェ	障がい福祉サービス事業所等による販売コーナー （飲食物(軽食)、事業所作品、特産品等の販売）
鳥取聾学校写真展	鳥取聾学校生徒による写真作品の展示コーナー
手話パフォーマンス甲子園 クイズラリー	手話にまつわるクイズを出題、複数のクイズコーナーを設置するクイズラリーを実施
協賛企業ブース	協賛企業（多額の協賛金をいただいた企業）による特設ブース



## 15. 運営体制



## 16. 大会公式ソング

### HANDSIGN 「LIFE STORY」

- ⇒ 第2回大会のゲストパフォーマー。
- ⇒ 昨年の第2回大会の公式テーマソングとして、同アーティストの楽曲「友達」を採用した。
- ⇒ 大会のプロモーション等で活用する。  
(大会時に歌唱する等を行わない。)
- ⇒ 引き続き、同アーティストの楽曲を公式テーマソングとして活用することで、昨年興味をもったファン層等、若い人たちにPRすることが可能。



【手話とダンスを融合したパフォーマー】



## 17. 後援

内閣府(予定)、厚生労働省、文部科学省(予定)、倉吉市、  
一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、  
全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、  
NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、  
日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、  
朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、  
日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、  
共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、  
日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、  
鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

[次ページ以降は、企画運営委託業者による実施計画書]







全国高校生  
手話パフォーマンス甲子園

実施計画書

2016.06.28

 株式会社 新日本海新聞社

 日本海テレビ

m&m.CO

共同企業体

## HANDSIGN を通した 手話の魅力発信

### 地元 高校生の盛り上がりは不可欠

手話・ろう者への理解、交流を促進するため、地元、特に大会の当事者である高校生の盛り上がりは不可欠であると考えています。

そこで、昨年のゲストパフォーマー、HAND SIGNによる**大会テーマソングの活用**を通して、手話の魅力を発信していきます。

### 大会テーマソングの活用

この曲を聴けば、「手話パフォーマンス甲子園」というような、大会テーマソングを新設し、WEB・CM・会場等で展開！

■ 著作権 Hand Sign 原著作権「富士パンフィック」了解済  
# 提供する楽曲は、「LIFE STORY」を予定



**➡ HANDSIGNを通じて、手話の魅力発信につなげる**

## 手話パフォ クイズラリーの開催

来場者に、手話・ろう者への理解と交流の促進を図るために、「手話スタンプラリー」を開催します。

### ◎手話パフォ クイズラリーとは？

会場内に6つのボードを設置し、手話にまつわるクイズを出題。それに答えると、抽選で豪華な賞品が当たるというモノ。

#### ■参加賞 全員

障がい者福祉サービス事業所の商品を景品にすることで、売上に寄与すると同時に、マルシェの利用促進、来場者満足、来場者同士の交流につなげていきます。



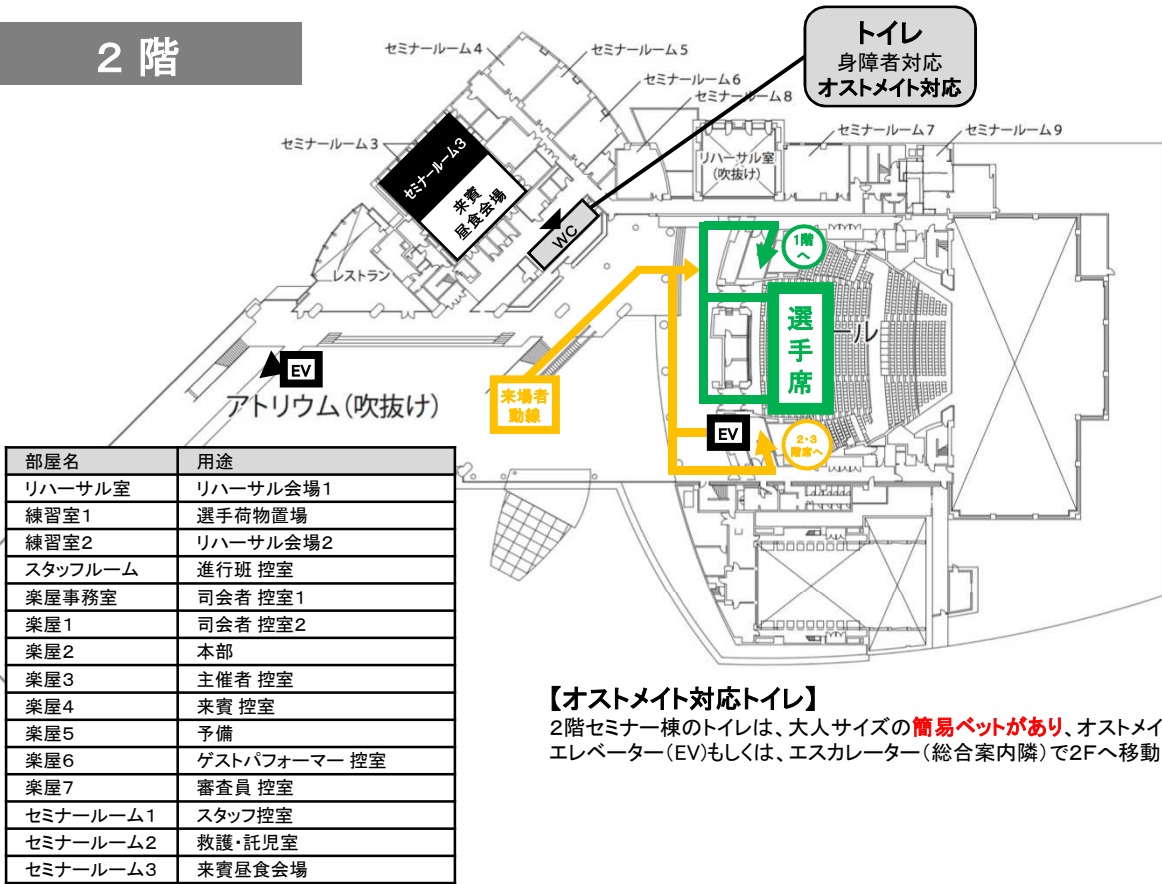
## 商品が当たるクイズラリー・スタンプラリーは、来場動機につながる

#### ■クイズラリー・スタンプラリー活用事例

平成27年 あいサポート・アートとっとり祭 来場者 約5,000人 スタンプラリー利用者 約1,500人  
平成28年 鳥取砂丘コナン空港1周年 来場者 約2,000人 クイズラリー利用者 約800人

**➡ 来場者満足・マルシェ利用促進へ**

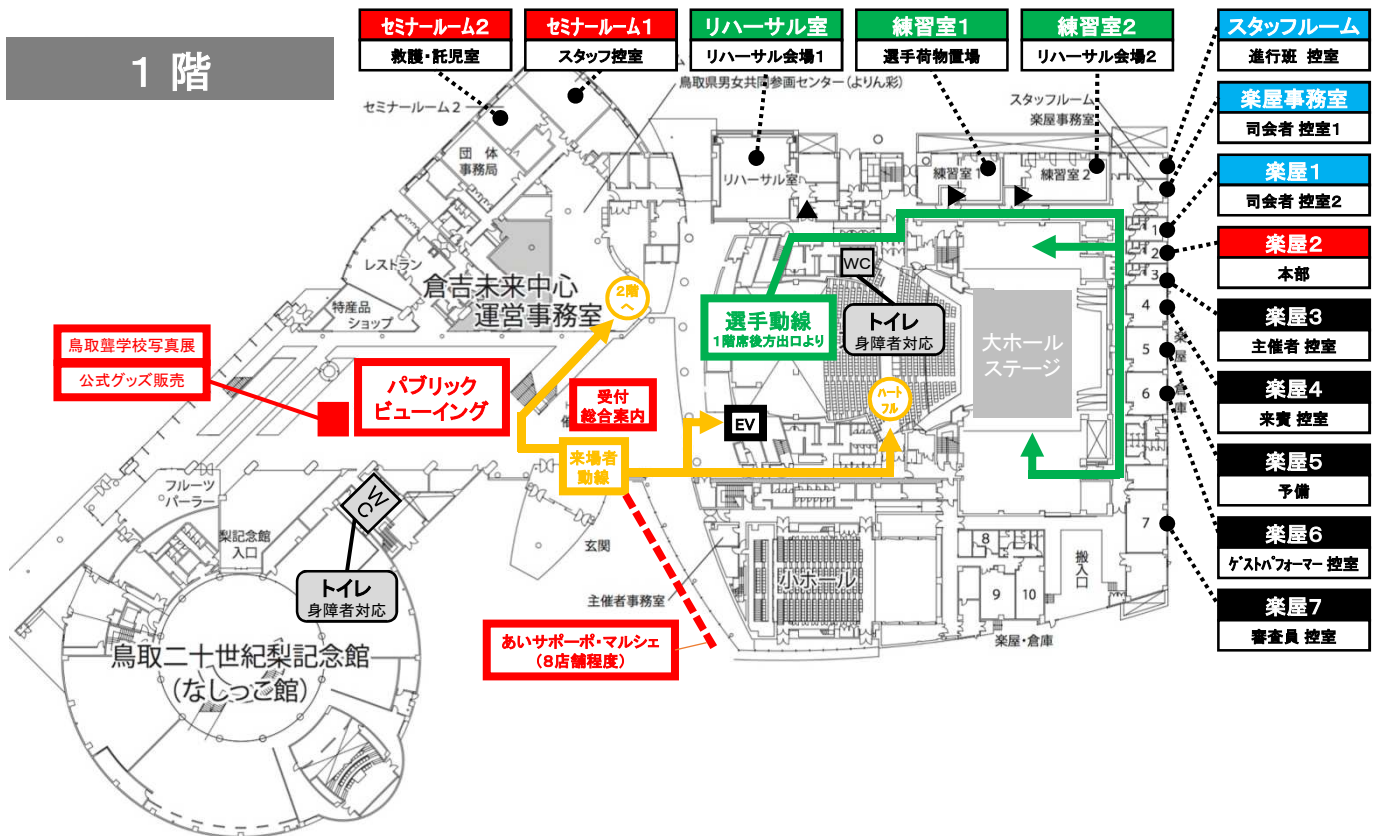
2階

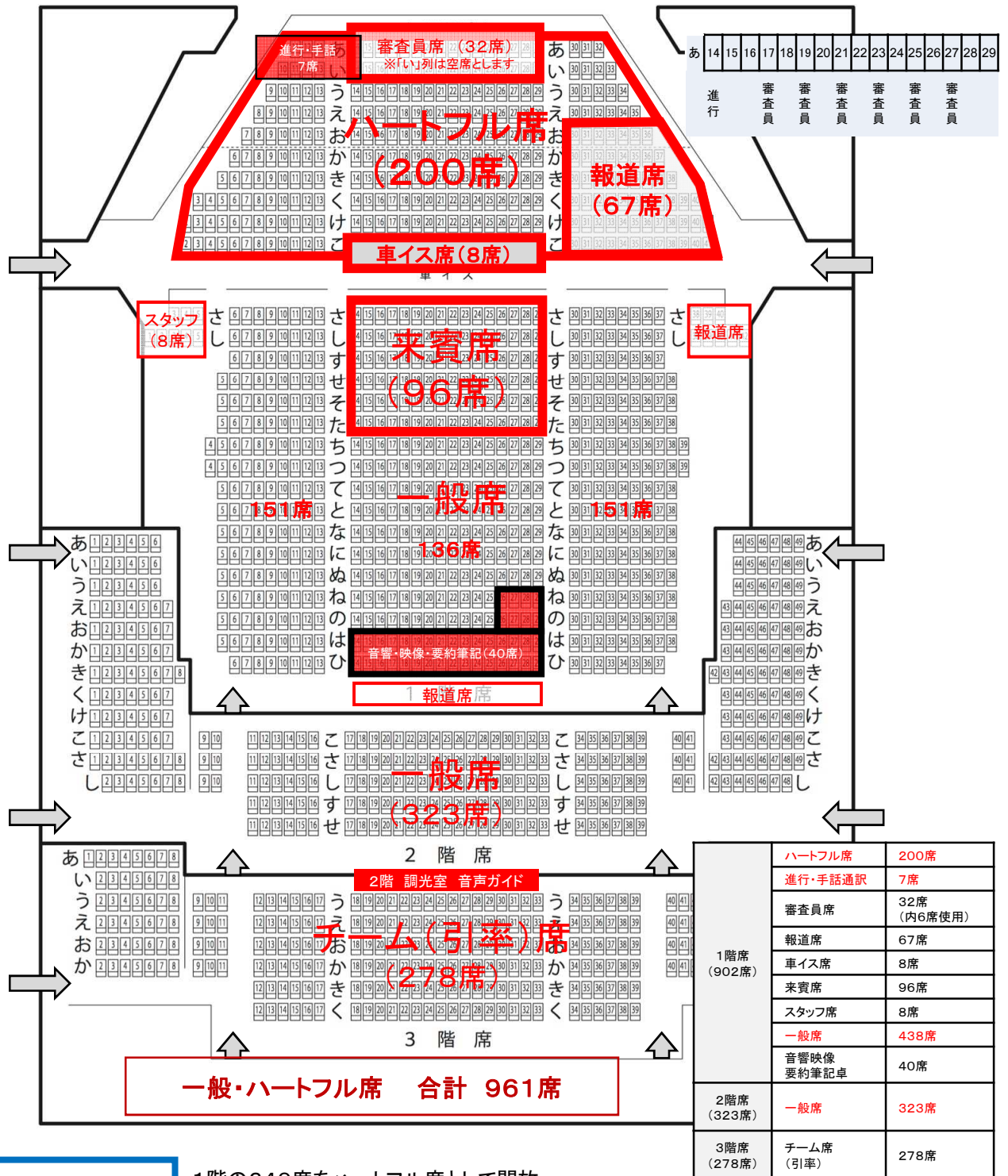


【オストメイト対応トイレ】

2階セミナー棟のトイレは、大人サイズの簡易ベットがあり、オストメイト対応です。エレベーター(EV)もしくは、エスカレーター(総合案内隣)で2Fへ移動

1階





**ハートフル席**

1階の240席をハートフル席として開放。  
 体の不自由な方やお年寄りを優先的に、ステージやモニター近くに誘導します。  
 看板設置 「ハートフル席をご利用の方は、お声かけください」  
 ◎身体の不自由な方 ◎スクリーンやステージが見にくい方 ◎お年寄り

**一般席**

座席は①ハートフル席(200席) ②1階席(438席) ③2階席(323席)の3つに分け、整理券を配布し、来場者の人数を把握。  
 >お帰りの方 整理券を回収し、新規来場者へ再配布  
 >再入場される方 整理券をそのまま、お持ちいただき、再入場券へ







中央スクリーン【400インチ相当】で投影

LIVE映像

手話通訳

要約筆記

演出映像

手話が分かるバストサイズをメインに表示



インタビュー時



パフォーマンス時

4ソースを、場面に合わせて、マルチ画面で投影することで、演技中に、目線が左右に振られ、得られる情報が少なくなるという問題点を解決します！

演出映像

頭上照明と左右照明を基本照明とし、ステージの明るさを確保しながら、スクリーンの輝度も確保できるよう工夫します。

演技時間表示

下手(司会者側)に表示灯を設置し、残り時間が分かるようにします。

→ 開始後 **青** 1分前 **緑** 30秒前 **黄** 超過 **赤**

**演技開始** 司会者の「どうぞ！」の合図で演技開始。(計測開始)

**演技終了** 出演者の「ありがとうございました」でストップ

ハートフル席

1階の200席をハートフル席として開放。

体の不自由な方やお年寄りを優先的に、ステージやモニタ近くに誘導します。

2階・3階席

2階・3階席に、モニタの設営が構造上出来ないため、

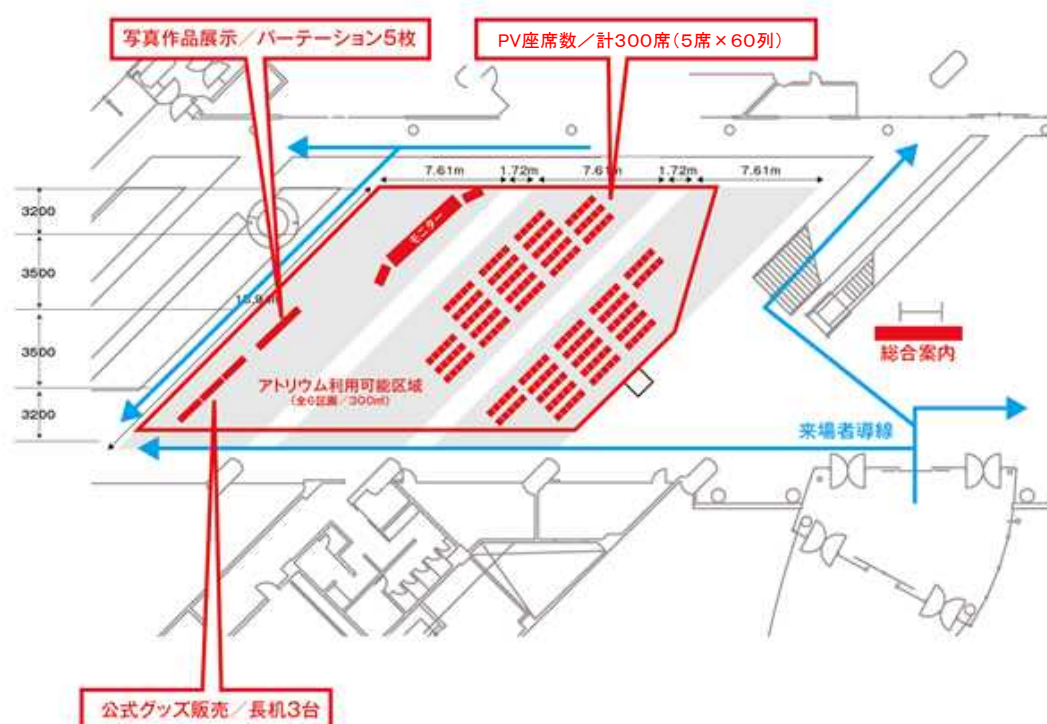
お手持ちのスマートフォンで、モニタと同様の画面を観覧出来るようにします。



スクリーン

①ライブ映像 ②手話通訳 ③要約筆記を  
場面に合わせマルチ画面で表示

2つのスクリーンを用意し、①240インチのスクリーン(プロジェクター10,000ルーメン)にライブ映像・手話通訳・要約筆記を投影。音声は、会場と同じ音声を配線し、臨場感のあるパブリックビューイングを展開します。





## ■雨天時・緊急時対応

9月25日(日) AM5:00時点

主催者と協議の上

倉吉市内に**警報**が発令



**開催か中止の判断**

### 中止の場合

- ◎鳥取県⇒各関係機関へ連絡
- ◎統括⇒各班へ連絡
- ◎進行班⇒各出演者へ連絡(中止時の連絡網は別途作成)
- ◎出演者班⇒出場チームへ連絡

来場者へは、会場「3×6看板」に「本日は中止となりました」紙を張り 周知を行う  
来場者対応として、スタッフを配置し、中止を喚起  
特設HP/Facebook等で、中止を告知

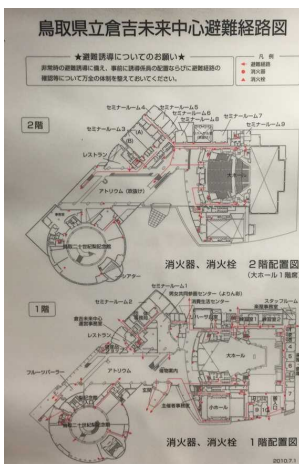
### 開催の場合

- ◎鳥取県⇒各関係機関へ連絡
- ◎統括⇒各班へ連絡
- ◎進行班⇒各出演者へ連絡
- ◎出演者班⇒出場チームへ連絡

特設HP/Facebook等で、開催を告知

- ◎3×6看板へのビニールがけ
- ◎傘袋の用意等
- ◎マルシェ開催場所の変更

### 緊急時対応



- 地震・火災発生時⇒運営本部に集合  
(主催者・統括スタッフ・倉吉未来中心スタッフ)  
協議後  
指示を各班に伝え、来場者・スタッフへ伝える
- ◎総合案内班 情報ボードに情報を掲載
  - ◎進行班 モニタに情報を掲載

事前に、避難経路についてはスタッフに周知徹底します。

**危機管理マニュアルを作成しスタッフに徹底します**

## ■バリアフリー対策

### SPコード/ユニバーサルカラー

音声ガイドの作成作業をスムーズに行うことができます。また、デザインの配色は、ユニバーサルカラーに準拠して行っております。

### インターネット動画の配信

公式WEBサイトから、ステージの様子をYOUTUBEでインターネットで中継を行います。



### 手話通訳者の配置

ステージ進行に関わる手話通訳者を配置。  
また、運営スタッフとして、手話ができる「手話スタッフ」を配置します。  
運営に関する手話スタッフについては、鳥取県聴覚障害者協会と調整。

### 要約筆記・モニタの配置

①手話通訳②ライブ映像③要約筆記を一体化し、ひとつの画面で分かりやすく、情報を発信します！

(1)ステージ (2)パブリックビューイング (3)LIVE配信



### 音声ガイドの実施

ステージ上の音声を聞きとりやすくするため、音声ガイドを実施。  
何かあれば、対応できるよう、専門スタッフを配置します。



### メモ帳の携帯

全てのスタッフに、ろう者にメッセージを伝えられるよう、メモ帳の携帯をさせます。

### 託児室・救護室の実施

救護室では、重度の障がい者の休憩スペースとして、ベッド等を用意しイベントの合間にくつろげるスペースを確保します。



### 無料シャトルバス

スロープ付のシャトルバスをJR倉吉駅＝倉吉未来中心へ運行



### ハートフル駐車場

ハートフル駐車場スペースを確保します。

## ■ 駐車場計画

# 合計883台

- ・ハートフル77台(追加51台含む)
- ・バス13台
- ・スタッフ80台

### ■ 倉吉パークスクエア駐車場 収容台数772台

(内 ハートフル77台・バス13台)



### ■ 臨時駐車場 収容台数111台



駐車場	収容台数
第1駐車場	201台 ハートフル: 58台 来賓: 58台
第2駐車場	375台 ハートフル: 9台 バス: 13台 スタッフ: 80台
第3駐車場	108台 ハートフル: 6台
第4駐車場	88台 ハートフル: 6台
臨時駐車場	111台
合計	883台 ハートフル: 77台

### 【駐車場優先順位】

①第1駐車場 → ②第2駐車場 → ③第3駐車場 → ④臨時駐車場 → ⑤第4駐車場



■ 各空港の送迎

出場チーム・来賓の使用する空港を鳥取空港に集約し、飛行機到着時間にあわせてマイクロボスを運行します。

※バスの型・台数については、出場チーム決定後、再度調整します。

■ JR倉吉駅(主要最寄駅)の送迎

特急到着時間にあわせて、利用者数にあわせ「バス・タクシー」を運用します。

◎9月24日(土)

＞鳥取空港→倉吉未来中心

便名	羽田空港 発	鳥取空港 着
293便	06:40	07:55
295便	09:45	11:00
1101便	13:00	14:15
297便	16:40	17:55
299便	19:15	20:30

※来賓がいらっしゃる場合は、JR倉吉駅経由

＞JR倉吉駅→倉吉未来中心

＞倉吉未来中心→交流会会場

※時間は、交流会開催時間に合わせて調整します。

＞交流会会場→JR倉吉駅(宿泊地)

※時間は、交流会終了時間に合わせて調整します。

◎9月25日(日)

＞JR倉吉駅(宿泊地)→倉吉未来中心

07:30発→07:45着 08:00発→08:15着  
(来場者用のシャトルバス2台で使用し、運行)

＞倉吉未来中心→JR倉吉駅

(来場者用のシャトルバスを利用)

＞倉吉未来中心→鳥取空港

17:00発→18:00着

便名	鳥取空港 発	羽田空港 着
298便	18:35	19:55

※来場者シャトルバスAを利用

＞倉吉未来中心→米子空港

18:00発→19:30着

便名	米子空港 発	羽田空港 着
390便	20:50	22:15

※来場者シャトルバスBを利用



## 大会のイメージカラーを統一

第1回、第2回と、大会のイメージカラーが統一されませんでした。企画委員からも大会のイメージカラーを決めた方が良いという意見がありました。

- ①現在、自動販売機・募集ポスターが黄色のイメージで展開していること
  - ②第1回の大会カラーであること
  - ③日本財団の協賛によるユニバーサルデザインタクシーが導入されたこと
- 以上の観点から、黄色を大会のイメージカラーとしてご提案します！



### ポスター

## ユニバーサルデザインに基づいたカラーの使用

平成26年の全国障がい者芸術文化祭ととり大会の企画運営を行った経験を活かしたユニバーサルデザインへの配慮も特徴のひとつです。

画面用 推奨配色例～画面用～

見分けにくい組み合わせ

下記組み合わせや視覚的連続性は比較的使用しないこと、併用を避けてください。

アクセントカラー	ベースカラー	アクセントカラー～ベースカラー	視覚的連続性
青・赤	青・赤	青・赤	視覚的連続性
青・黄	青・黄	青・黄	視覚的連続性
青・緑	青・緑	青・緑	視覚的連続性
青・紫	青・紫	青・紫	視覚的連続性
青・白	青・白	青・白	視覚的連続性
赤・黄	赤・黄	赤・黄	視覚的連続性
赤・緑	赤・緑	赤・緑	視覚的連続性
赤・紫	赤・紫	赤・紫	視覚的連続性
赤・白	赤・白	赤・白	視覚的連続性
黄・緑	黄・緑	黄・緑	視覚的連続性
黄・紫	黄・紫	黄・紫	視覚的連続性
黄・白	黄・白	黄・白	視覚的連続性
緑・紫	緑・紫	緑・紫	視覚的連続性
緑・白	緑・白	緑・白	視覚的連続性
紫・白	紫・白	紫・白	視覚的連続性
白・黒	白・黒	白・黒	視覚的連続性

カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット制作委員会が作成したガイドラインに基づき、デザインの制作を行います。カラーユニバーサルは、塗装・印刷・画面など、使用する用途によって、異なるため、使用用途に合わせ、誰にでも見やすいデザイン制作を行います。



## 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項

1. 目的 ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。

### 2. 大会概要

- (1) 大会名 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「本大会」という。）
- (2) 日時 平成28年9月25日（日）午前9時30分から午後4時30分まで（時間は予定）
- (3) 会場 倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5）
- (4) 出場 予選審査を通過した20チーム
- (5) 内容 以下のとおり

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介）</li><li>②出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内）</li><li>③ゲスト演技（手話パフォーマー）</li><li>④審査発表（審査員6名）</li><li>⑤表彰式（賞状等授与）</li><li>⑥総評</li><li>⑦閉会</li></ul> |
|---|

- 3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- 5. 特別協賛 日本財団
- 6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 7. 後援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、(株)エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

### 8. 参加資格

- (1) 平成28年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）又は特別支援学校高等部に在籍していること。
- (2) 本大会に参加することについて、在籍する校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。
- (3) 本大会に参加するに当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
- (4) 原則として、本大会の全日程に参加できること。

### 9. チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、必要に応じて介添えや演技の補助者も含めることができるものとする。人数は最大で生徒20人以内、引率者10人以内とする。なお、同一校からの複数チームの応募は認めるが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位であったチームのみとする。

## 10. 演技内容

- (1) 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。
- (2) 演技時間は、8分以内とする。
- (3) 情報保障の観点から、演技の中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。
- (4) 演技の補助として、準備に時間を要しない簡単な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。
- (5) 手話を観客等に見やすくするため、演技は間口10メートル、奥行5メートル程度のエリアで行うこと。

## 11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、応募チームが提出した演技動画により審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

## 12. 応募方法

- (1) 申込期間 平成28年5月9日(月)から6月30日(木)まで
- (2) 提出書類 別紙のとおり(省略)
- (3) 補足事項
  - ア (2)の書類は、それぞれ押印の上、13.の応募先まで郵送で提出すること。
  - イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添(省略)のとおり取り扱うので、同意の上応募すること。
  - ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は7月25日(月)とする。まずは、6月30日(木)までに参加申込みを行うこと。

## 13. 応募先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地  
手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局(鳥取県庁福祉保健部障がい福祉課内)  
電話:0857-26-7682 FAX:0857-26-8136 Eメール:s-koushien@pref.tottori.jp

## 14. 参加料 不要

## 15. 助成金

出場チーム(生徒、引率者)に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。

- ① 交通費(領収書必要)  
実費相当額を助成(1チーム当たり250,000円を上限とする)
- ② 宿泊費(領収書必要)  
実費相当額を助成(1チーム当たり50,000円を上限とする。)

## 16. 表彰

表彰区分は次のとおりとする。

- ① 優勝(賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。)
- ② 準優勝(賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。)
- ③ 3位(賞状、メダル、副賞を授与する。)
- ④ 審査員特別賞(賞状、副賞を授与する。)
- ⑤ 全日本ろうあ連盟賞
- ⑥ 日本財団賞

## 17. 予選審査会

- (1) 日 程 平成 28 年 8 月 9 日(火)
- (2) 場 所 鳥取県鳥取市内で開催
- (3) 内 容 応募チームが提出した演技動画の審査を実施し、本大会に出場する 20 チームを選出する。
- (4) 結 果 当日、審査結果発表の様子についてライブ中継を行う。(当日夕方を予定。)
- (5) その他 審査結果発表後、本大会の演技の順番について抽選を行い、決定することとする。

## 18. 交流会

- (1) 日 時 平成 28 年 9 月 24 日(土)午後 6 時から 8 時まで(時間は予定)
- (2) 場 所 鳥取県中部地区で開催
- (3) 内 容 出場チームやその他大会関係者が一同に会し、食事を交えて参加者同士の交流を深めるもの。

## 19. スケジュール

- |             |  |
|-------------|--|
| 2 月 15 日(月) | 開催告知                                   |
| 3 月 18 日(金) | 開催要項公表                                 |
| 5 月 9 日(月)  | 参加申込み受付開始                              |
| 6 月 30 日(木) | 参加申込み締切                                |
| 7 月 15 日(金) | 参加者名簿等の提出締切                            |
| 7 月 25 日(月) | 予選審査用動画の提出締切                           |
| 8 月 9 日(火)  | 予選審査会(結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チーム決定)          |
| 8 月 31 日(水) | ヒアリングシートの提出(演技内容の詳細(シナリオ、楽曲、使用機材・道具等)) |
| 9 月 24 日(土) | リハーサル(本大会と同会場)、交流会                     |
| 9 月 25 日(日) | 本大会                                    |

## 20. その他

- (1) 参加者の交流を深める目的であることから、本大会前日の 9 月 24 日(土)に開催する交流会は、原則として参加すること。(参加費は不要。)
- (2) 9 月 24 日(土)に本大会と同会場で行ハーサルを開催する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、事務局にて指定することとする。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 演技上のセリフや歌詞等に対応させた字幕を必ず付与すること。なお、演技の字幕は、予選審査用動画においては映像の中に、本大会においては原則としてスクリーン(舞台後ろ)に表示させること。また、本大会における字幕の表示はパフォーマンスの表現の一環であることから、引率者等が自ら行うこと。(主催者側でセリフの要約筆記等を行わない。)
- (5) 演技で使用する小道具及び会場にない設備を使用(特殊な照明や音響等)する場合(準備が1分以内に完了できるものに限る。)は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすることとする。
- (6) 本大会において演技中に CD 音源を使用する場合、インターネット上での配信について著作権者の許可が得られないものについては、CD 音源部分の音声を消去した上で本大会当日のライブ映像及び後日公開する映像を配信することとする。なお、各チーム等が作成した音源(ピアノやブラスバンド伴奏、生徒の合唱等。CD 音源が含まれないもの。)については、著作権上、音声を消去する必要がない(ただし、音源の作成者の了解が得られたものに限る。)ことから、その音源も含めてライブ映像等を配信することができる。

# 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領

## 1 予選審査会の概要

- (1) 日程 平成28年8月9日(火)
- (2) 場所 鳥取県庁(鳥取県鳥取市東町一丁目220番地)
- (3) 補足
  - ア 参加申込みが多数の場合、翌日10日(水)まで予選審査を行う場合がある。
  - イ 会場は変更する場合がある。
  - ウ 予選審査の結果発表は公開の上行うとともに、インターネット上でライブ中継する。

## 2 審査員

審査員は、ろう者2名及び聞こえる人2名の4名とし、このうち1名を審査員長とする。

## 3 審査方法

4の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技(動画)を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

## 4 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	合計
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
ろう者	(30点満点)	(30点満点)	(60点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
聞こえる人		(40点満点)	(40点満点)
合計	(60点満点)	(140点満点)	(200点満点)

- (2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

セリフ(音声表現、字幕)と手話が正しく表現されているか。表情も使って分かりやすく表現されているか。演技者が表現したい内容が伝わり理解できるか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感があるか。機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあるか。演技者が込めた思いやメッセージがしっかりと伝わってくるか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

- (3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点から減点とすることとし、審査員の協議(減点の点数の定めがないものは、その点数も含む。)により決定する。なお、協議の結果、意見がまとまらない場合は、審査員長が決定する。

項目	内容
差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合	失格
第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合	失格
本大会では準備に大幅に時間を要する又は使用(再現)できないことが明らかな大道具、設備、演出等の使用	失格
動画の中に字幕が全くない場合	失格
動画制限時間(3分)の超過(1分超)	失格
動画制限時間(3分)の超過(1分以内)	10点減点
その他、定められた動画の撮影方法に反した場合※	10点減点
その他、不適切と認めた演技又は行為	失格又は減点

※ 「その他、定められた動画の撮影方法に反した場合」とは、以下のとおりとする。ただし、その違反の程度が軽微で、審査に影響がない場合を除く。

- ・演技者の正面で撮影していない場合。
- ・カメラを固定せず、ズームやワイド等の倍率の変更及びカメラを移動させて撮影している場合。
- ・演技の構成上明らかに必要ないにもかかわらず、演技の演出に背景を使用していること。
- ・演技者の全身が表示されていない場合。ただし、前後の列となる場合の後列の演技者や着席している場合は、手話が見えるよう少なくとも上半身を表示させればよい。
- ・映像の明度が非常に低く、演技者の表情や手話がよく見えない場合。
- ・字幕が認識しづらい場合（文字の大きさが非常に小さい、文字色が薄い、背景と同化しているなど）。
- ・字幕を固定して表示していない（文字が流れる字幕表示をしている）場合。

## 5 本大会出場チームの選出

### (1) 地方ブロック枠（6チーム）

応募チームを所在地別に6つの地方ブロック（北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中四国ブロック、九州・沖縄ブロック）に振り分け、各ブロックで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

### (2) 得点順枠（13チーム）

(1)の選出チームを除き、審査得点が高い順に13チームを本大会出場チームに選出する。

### (3) 開催地枠（1チーム）

(1)及び(2)の選出チームを除き、開催地（鳥取県）の応募チームで審査得点が最も高いチームを本大会出場チームに選出する。

### (4) 補足

- ア 各地方ブロック内において応募がないとき又は(1)及び(2)の選出チームを除き開催地で他に応募チームがないときは、そのチームの数を得点順枠の本大会選出チームの数に加えることとする。
- イ 審査得点が同点となり、順位を審査得点では決められない場合は、審査員長が順位を決定する。

## 6 本大会での演技順

(1) 開催地枠の選出チームが最初に演技を行う。なお、開催地枠の選出チームがない場合は、(2)のAグループを10チームとする。

(2) 2番目以降の演技順については、残りの19の本大会出場チームを2つのグループに分け、審査得点が下位の9チームをAグループ、上位の10チームをBグループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本大会ではAグループ、Bグループの順に演技する。

なお、当該抽選は予選審査結果の発表後に続いて行う。

## 7 予選審査結果の通知及び公表

- (1) 応募チームに対し、予選審査結果（本大会出場又は落選）、審査得点及び審査員評（審査員名は非公開）を通知する。ただし、失格又は辞退した応募チームについては、通知しない。
- (2) 本大会出場チームについては、チーム名及び審査得点を大会公式ホームページに掲載する。

## 8 その他

- (1) 予選審査結果の発表時に抽選を行い、選手宣誓を行うチームを決定する。
- (2) 予選参加の申込みを行ったものの、期限までに予選審査用の動画を提出しなかったチームは、失格とする。
- (3) 応募チームは、予選審査会の前日までに予選の参加を辞退することができる。

【別記】地域ブロックについて

ブロック名	都道府県名	ブロック名	都道府県名
北海道・東北ブロック	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	近畿ブロック	三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
関東ブロック	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	中国・四国ブロック	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
中部ブロック	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県	九州・沖縄ブロック	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県



第3回 全国高校生

# 手話パフォーマンス甲子園

ご協賛のお願い

平成28年9月25日（日） 開催  
[倉吉未来中心 大ホール]



手話パフォーマンス甲子園実行委員会





秋篠宮家 紀子様、佳子様のご臨席を仰ぎ、昨年11月に全国で初めて「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」が鳥取の地で開催されて早2年が経ちました。昨年の第2回大会では、全国から20の高校生チームが「手話の聖地」であるこの鳥取県に集まり、それぞれが個性を発揮しながら、見る人の心を打つ手話のパフォーマンスを披露していただき、各方面から賛辞が寄せられました。また、佳様が手話で初めてあいさつを述べられたのも記憶が新しいところです。

今年も関係者の願いに応え、手話をはじめコミュニケーション保障を先駆的に実行している鳥取県を代表する事業として、第3回大会を倉吉未来中心で開催します。全国の高等学校や特別支援学校の生徒が、障がいのあるなしを問わず、ダンス、歌唱、寸劇や漫才といった様々なパフォーマンスを手話で表現し、優勝を目指して熱く競います。若人が繰り広げる手話パフォーマンスをどうぞお楽しみください。

手話は世界中に広がる大切な言語表現であり、喜びも悲しみも伝えることができます。

手話言語条例の発祥の地であるこの鳥取県において、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信し、そして、手話を使った高校生の躍動感あふれるパフォーマンスが広がることで、手話を身近に感じてもらえる人が増えていくことでしょう。

また、大会を通じて、全国の高校生同士の交流の推進や、地域の活性化にもつながることを期待しています。

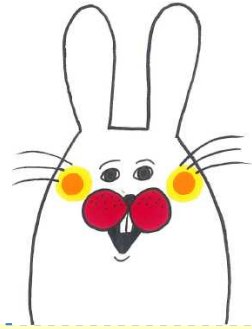
鳥取県では、「障がいを知り、共に生きる」を合い言葉に、障がいのある方にちょっとした手助けをする「あいサポート運動」の精神が生きています。若き高校生の手話をはじめ、障がいのある人とない人の交流、相互理解を進展させることにより、「支え愛」の共生社会を鳥取県から実現していきましょう。

各企業、団体、県民の皆様におかれましては、「手話パフォーマンス甲子園」の趣旨をご理解いただき、格段のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年4月

手話パフォーマンス甲子園実行委員会  
会長 平井 伸治





## 手話パフォーマンス甲子園の概要

### 【目 的】

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。

### 【日 程】

平成28年9月25日(日)

### 【会 場】

倉吉未来中心大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町212-5）

### 【参加資格】

高等学校、特別支援学校高等部に在籍する生徒

### 【内 容】

手話を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、落語などで競う。

### 【主 催】

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

（鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会共催）

## 協力をお願いしたい事項

### 資金協賛

資金の提供（1口1万円）をお願いします。

### 物品協賛

大会の実施に要する物品の提供をお願いします。

※ 協賛者名を表示していただくこともできます。

### 〔 協賛物品の例 〕

物 品 名
のぼり
卓上のぼり
参加者用バッグ
参加者用タオル
参加者用記念商品
大会入賞チームへの副賞賞品
大会参加チームへの参加賞賞品
大会参加者、スタッフへ提供する飲食料品



（協賛物品には協賛者の名称等を表示していただくこともできます。）



## 対象者・主な特典など

**【対象者】** 大会の趣旨に賛同する企業・団体・個人

**【主な特典】** 詳しくは、協賛者特典一覧をご覧ください。

**【募集期間】** 原則として、大会当日の平成28年9月25日まで  
※ ただし、8月1日以降に協賛していただいた場合は、協賛者特典の3, 4を受けることができないことがあります。

### 【申込み方法】

別添の協賛申込書に記載の上、ファクシミリ又は電子メールでお申し込みください。協賛申込書は、大会ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/koushien/>

**【申込み先】** 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220

鳥取県庁 障がい福祉課内

電話 0857-26-7682 ファクシミリ 0857-26-8136

メールアドレス s-koushien@pref.tottori.jp







### 協賛者特典一覧

協賛特典	協賛金額			備考
	50万円以上	10万円以上	1万円以上	
1 大会協賛者の呼称の使用	○	○	○	
2 大会ホームページへの協賛者名の掲載	○	○	○	掲載順は金額の高い順となります。 (同額の場合は申込順)
3 実行委員会が発行する刊行物への協賛者名の掲載	○	○	—	掲載順は金額の高い順となります。 (同額の場合は申込順)
4 大会プログラムへの協賛者名の掲載	○	○	—	掲載順は金額の高い順となります。 (同額の場合は申込順)
5 大会プログラムへの企業広告の掲載 (4色カラー)	○	○	—	・50万円以上 A4 1/2 頁 ・25万円以上 A4 1/4 頁 ・10万円以上 A4 1/8 頁
6 協賛者ホームページへのリンク	○	—	—	

- (注) 1 大会とは、「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」をいいます。  
 2 物品協賛の場合は金額換算します。  
 3 上記1, 2, 3及び6は協賛後順次、4及び5は大会開催当日に特典が受けられます。  
 4 全ての協賛者に手話パフォーマンス甲子園実行委員会会長から感謝状を交付します。  
 5 大会プログラムは、大会来場者に配付します。(最大2,500部発行予定。公式HPにも掲載)  
 6 上記5の企業広告については、原稿を作成の上、大会開催1ヶ月前までに納入してください。  
 7 大会当日、会場の受付にて協賛者の一覧を表示します。



～ 多くの協賛のお申込みをお待ちしています! ～



別添

【様式第1号】

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園協賛申込書

平成28年 月 日

手話パフォーマンス甲子園実行委員会  
会長 平井 伸治 様

住所又は所在地  
名 称  
代表者（役職・氏名）

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に下記のとおり協賛を申し込みます。

記

1 協賛の形態

資金協賛 ・ 物品協賛 （該当する協賛形態を囲んでください。）

2 協賛の内容（口数、物品名・数量、協賛者名の印字の有無等）

(1) 資金協賛

\_\_\_\_\_ 口 （協賛口数を記入してください。）

(2) 物品協賛の場合

ア 協賛物品名 \_\_\_\_\_

イ 協賛数量 \_\_\_\_\_

ウ 協賛者名印字の有無 有 ・ 無 （該当する方を囲んでください。）

3 提供予定日（該当する項目にレ（チェック）を入れてください。）

実行委員会が送付する協賛申込受理書（様式第2号）受領後、速やかに。

平成28年 月 日 （※指定日がある場合）

平成28年 月 日頃（※時期が決まっている場合）

[ご担当様の情報]

・所属 : \_\_\_\_\_

・氏名 : \_\_\_\_\_

・連絡先 : 0 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

### 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園協賛要綱

#### (趣旨)

第1条 この要綱は、第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「大会」という。）の趣旨に賛同する法人その他の団体（以下「企業等」という。）が、大会及び大会関連行事（以下「大会行事」という。）に協賛する際に必要な事項を定めるものです。

#### (協賛)

第2条 この要綱において、協賛とは、企業等が、手話パフォーマンス甲子園実行委員会（以下「実行委員会」という。）に対して行う次の各号に掲げる行為とします。

- (1) 資金協賛 大会行事の実施に要する資金（以下「協賛金」という。）の提供
- (2) 物品協賛 大会行事の実施に要する物品（以下「協賛物品」という。）の提供

2 前項第1号に規定する協賛金の提供は、1万円を1口とします。

3 協賛物品は、物品協賛をお申し出いただける企業等と実行委員会が協議して決定しますが、その例は別表1「協賛物品の例」のとおりです。なお、協賛物品には協賛物品を提供した企業等の名称等を表示していただくこともできます。

#### (募集期間)

第3条 募集期間は、原則として大会開催日である平成28年9月25日までとします。

#### (協賛依頼の対象者)

第4条 実行委員会は、大会の趣旨に賛同する企業等に対して協賛を依頼します。

#### (協賛の申込等)

第5条 協賛をお申し出いただける企業等は、あらかじめ第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園協賛申込書（様式第1号。以下「申込書」という。）を実行委員会会長に提出していただきます。

2 実行委員会会長は、申込書の提出があった場合、第10条第1項各号のいずれにも該当しないと認めるときは、申込者に対し第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園協賛申込受理書（様式第2号（省略））により受理した旨を通知します。

#### (協賛金の振込等)

第6条 第2条第1項第1号に規定する資金協賛を行おうとする企業等は、前条第2項による通知を受けた場合、速やかに、原則として実行委員会が指定する口座に協賛しようとする金額を一括して納付していただきます。ただし、第3条に定める期間内で、協賛金を分割して納付することもできます。

2 協賛金の領収書は、原則として金融機関が発行する振込金受取書で代えさせていただきます。ただし、実行委員会は、申込者の希望により、協賛金の領収書を発行することもできます。

(協賛物品の受納等)

第7条 第2条第1項第2号に規定する物品協賛を行おうとする企業等は、第5条第2項による通知を受けた場合、実行委員会が指定する方法により、協賛物品を納入していただきます。

2 実行委員会は、申込者の希望により、協賛物品の受領書を発行することもできます。

(協賛の特典等)

第8条 第6条第1項又は第7条第1項の規定により協賛を行った企業等(以下「協賛者」という。)の特典は、別表2「協賛者特典一覧」のとおりとします。ただし、第7条第1項の規定による協賛者の特典については、実行委員会が、協賛内容から換算した金額により別表2の協賛金額の区分に応じたものとします。

2 実行委員会は、前項に規定する協賛の特典以外に、必要に応じ、特典を追加することもあります。

(協賛金の使途)

第9条 協賛金は、次の各号のいずれかに掲げる経費に充てるものとします。

- (1) 大会行事を広く周知するために要する経費
- (2) 大会行事の実施に要する経費
- (3) その他大会の開催に付随する経費で必要と認められるもの

(協賛申込の不受理等)

第10条 実行委員会会長は、申込者が、次の各号のいずれかに該当する場合は、申込書を受理しないものとし、申込者に対しその旨通知します。

(1) 特定の政治、思想、宗教等の活動を目的とした団体、又は大会を特定の政治、思想、宗教

等の活動に利用する恐れのある者

(2) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団(以下「暴力団」という。)又は暴力団の構成員(以下「暴力団員」という。)であると認められる者

(3) 法令又は公序良俗に反する者

(4) 大会について、品位を傷つけ、又は正しい理解を妨げる恐れのある者

(5) その他実行委員会会長が不相当と判断する者

2 実行委員会会長は、第5条第2項により協賛の申込を受理された者が、その後、前項各号のいずれかに該当するに至った場合、又は前項各号のいずれかに該当することが判明した場合は、協賛を取り消すものとし、協賛者に対し、その旨を通知するとともに、原則として、協賛金、協賛物品を返戻します。

附 則

この要綱は平成28年4月1日から施行する。

[別表 1]

協賛物品の例

物 品 名
のぼり
卓上のぼり
参加者用バッグ
参加者用タオル
参加者用記念商品
大会入賞チームへの副賞賞品
大会参加チームへの参加賞賞品
大会参加者、スタッフへ提供する飲食料品

(協賛物品には協賛者の名称等を表示していただくこともできます。)

[別表 2]

協賛者特典一覧

協 賛 特 典	協 賛 金 額			備 考
	50 万円 以上	10 万円 以上	1 万円 以上	
1 大会協賛者の呼称の使用	○	○	○	
2 大会ホームページへの協賛者名の掲載	○	○	○	掲載順は金額の高い順となります。(同額の場合は申込順)
3 実行委員会が発行する刊行物への協賛者名の掲載	○	○	—	掲載順は金額の高い順となります。(同額の場合は申込順)
4 大会プログラムへの協賛者名の掲載	○	○	—	掲載順は金額の高い順となります。(同額の場合は申込順)
5 大会プログラムへの企業広告の掲載 (4色カラー)	○	○	—	・50万円以上 A4 1/2 頁 ・25万円以上 A4 1/4 頁 ・10万円以上 A4 1/8 頁
6 協賛者ホームページへのリンク	○	—	—	

(注) 1 大会とは、「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」をいいます。

2 物品協賛の場合は、金額換算します。

3 上記1, 2, 3及び6は協賛後順次、4及び5は大会開催当日に特典が受けられます。

4 全ての協賛者へ手話パフォーマンス甲子園実行委員会会長から感謝状を送付します。

5 大会プログラムは、大会来場者に配付します。(最大 2,500 部発行予定。公式 HP にも掲載)

6 上記5の企業広告については、原稿を作成の上、大会開催1ヶ月前までに納入してください。

7 大会当日、会場の受付にて協賛者の一覧を表示します。

# 資料 5

## 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成28年6月28日現在

日程	内容	備考
平成28年2月15日	実行委員会開催	第3回大会基本計画、収支予算・決算、実行委員会設置運営要項改正
平成28年2月29日	第4回企画推進会議	第3回大会開催要項、選考方法
平成28年4月	大会チラシ、ポスター送付	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の高等学校、特別支援学校</li> <li>全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会)</li> <li>各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体</li> <li>県内各市町村</li> <li>県内公共施設 等</li> </ul>
平成28年5月9日	参加申込み受付開始	予選審査動画の提出期限(7月25日)
平成28年6月28日	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、収支予算・決算
平成28年6月30日	参加申込み期限	
平成28年7月4日	JR山陰主要駅での広告開始	デジタルサイネージ・ポスター掲示 鳥取・倉吉・米子・松江・出雲市駅
平成28年8月9日	予選審査会	鳥取県庁(審査結果発表会) 本大会に出場する20チーム選出
平成28年8月下旬	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成28年9月24日	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 交流会、リハーサル	リハーサル: 倉吉未来中心 交流会: 鳥取短期大学・看護大学
平成28年9月25日	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本大会	倉吉未来中心大ホール
平成28年11月上旬	第3回企画推進会議	第3回大会開催結果の報告、意見交換
平成29年1月中旬	実行委員会総会	第3回大会開催結果・総括、第4回大会基本計画、補正予算
平成29年2月中旬	第4回企画推進会議	第4回大会開催要項、選考方法

[参考] 2016年カレンダー(第3回大会関係)

申込み受付期間





## 資料 6

## 平成28年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支予算書

## (1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	備考
助成金	31,230,000	・日本財団助成金
負担金	13,824,000	・鳥取県負担金
協賛金	1,500,000	・協賛金
手数料	72,000	・応援自動販売機手数料
雑入	120,000	・寄付金 ・預金利息
前年度繰越金	550,198	・前年度（H27年度）からの繰越額
計	47,296,198	

## (2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	備考
実行委員会運営費	698,000	・実行委員会開催経費 （旅費、会場使用料、通訳、飲料代等） ・実行委員会の運営経費 等
広報宣伝費	4,500,000	・チラシ、ポスター印刷費 ・広告費 ・テレビ番組制作費 等
大会開催費	13,478,198	・予選審査会開催経費 ・参加チーム助成金 ・大会開催経費 （旅費、会場使用料、通訳、飲料代等） ・交流会開催経費 ・関係機関との連絡調整費 等
大会運営委託費	28,620,000	・大会企画運営委託業務 ・委託業者選定審査会開催経費 等
計	47,296,198	

# 平成28年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事業計画書

## 1 事業の目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。

なお、この大会を鳥取県及び公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会の共催で開催するに当たり、準備に万全を期するとともに、円滑な大会運営を図る。

## 2 事業の内容

手話パフォーマンス甲子園の円滑な実施及び運営を図るため、以下の事業を行う。

- ア 手話パフォーマンス甲子園の企画、準備及び運営に関すること。
- イ その他手話パフォーマンス甲子園の目的を達成するために必要なこと。

## 3 手話パフォーマンス甲子園の概要

### (1) 概要

日 時	9月25日（日）9時30分～16時30分（時間は予定。）
場 所	倉吉未来中心 大ホール（倉吉市駄経寺町212-5）
プログラム	1 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介） 2 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内） 3 ゲスト演技（手話パフォーマー） 4 審査発表（審査員6名） 5 表彰式（賞状等授与） 7 総評 8 閉会

(2) 資格 高等学校又は特別支援学校高等部に在籍している生徒（校長の推薦書が必要。）

(3) 演技 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、漫才などのパフォーマンス

### (4) スケジュール

#### ア 募集期間

平成28年5月9日（月）から同年6月30日（木）まで

※予選審査用動画の提出期限：7月25日（月）

#### イ 予選審査会

平成28年8月9日（火）鳥取県庁で開催

#### ウ リハーサル・交流会

平成28年9月24日（土）倉吉未来中心 大ホール（リハーサル）・鳥取県中部地区（交流会）

#### エ 本大会

平成28年9月25日（日）倉吉未来中心 大ホール

## 4 実行委員会の開催予定

日 程	内 容
平成28年 6月	実行委員会企画推進会議（第1回）
平成28年 8月	実行委員会企画推進会議（第2回）
平成28年11月	実行委員会企画推進会議（第3回）
平成29年 1月	実行委員会総会
平成29年 2月	実行委員会企画推進会議（第4回）

## 平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支決算書

### (1) 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 引	備 考
助成金	27,870,000	27,870,000	0	日本財団助成金
負担金	8,391,000	8,391,000	0	鳥取県負担金
協賛金	1,038,704	1,038,704	0	大会への協賛金 (団体・個人)
雑入	124,302	135,276	10,974	寄付金 自動販売機販売手数料 預金利息 等
計	37,424,006	37,434,980	10,974	

### (2) 支出の部

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 引	備 考
実行委員会運営費	400,000	427,145	27,145	実行委員会開催経費 (旅費、会場使用料、通訳、飲料代等) 実行委員会の運営経費 等
広報宣伝費	1,800,000	1,777,890	△22,110	チラシ、ポスター印刷 デジタルサイネージ広告 各種大会PRグッズ 等
大会準備費	200,000	20,672	△179,328	予選審査会開催経費 大会委託業者選定審査会開催経費 等
大会運営費	35,024,006	34,659,075	△364,931	大会企画運営委託業務 参加チーム助成金 大会開催経費 (旅費、会場使用料、通訳、飲料代等) 交流会開催経費 等
計	37,424,006	36,884,782	△539,224	

### (3) 来年度繰越額

(単位：円)

決算額 (収入)	決算額 (支出)	H28 年度への繰越額
37,434,980	36,884,782	550,198

# 平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事業報告書

## 1 事業の目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築くため全国初の手話言語条例を制定した鳥取県において、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的として、「手話パフォーマンス甲子園」を開催する。

この大会を鳥取県及び公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が共同で開催するに当たり、準備に万全を期するとともに、円滑な大会運営を図る。

## 2 事業の内容

手話パフォーマンス甲子園の円滑な実施及び運営を図るため、以下の事業を行う。

ア 手話パフォーマンス甲子園の企画、準備及び運営に関すること。

イ その他手話パフォーマンス甲子園の目的を達成するために必要なこと。

## 3 事業の実績

日程	内容	備考
平成27年3月	大会チラシ送付	全国の高等学校、特別支援学校
平成27年4月	大会チラシ、ポスター送付	・全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会) ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成27年5月11日	参加申込み受付開始	
平成27年6月15日	JR 主要駅でのデジタル広告開始	鳥取駅、米子駅、松江駅、出雲市駅
平成27年7月3日	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、 予算・決算、準備状況
平成27年7月10日	参加申込み期限	47チーム(50校)の応募あり
平成27年7月29日	予選審査会	とりぎん文化会館 本選出場20チームを選出
平成27年8月4日	予選審査結果通知	
平成27年8月31日	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成27年9月10日	ハンドサイン スクールプロジェクト	米子西高等学校で実施
平成27年9月21日	第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 交流会、リハーサル	交流会：米子市公会堂 リハーサル：米子全日空ホテル
平成27年9月22日	第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本選	米子市公会堂
平成27年11月27日	第3回企画推進会議	第2回大会開催結果の報告、今後に向けた改善点等の意見交換
平成28年2月15日	実行委員会総会	開催結果、第2回大会総括、専決処分 の報告、第3回大会基本計画、補正予算
平成28年2月29日	第4回企画推進会議	第3回大会開催要項、選考方法

## 4 第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果

別添のとおり。

## 「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催について

全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げその表現力を競う全国大会「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を以下のとおり開催しました。

### 1 大会概要

- (1) 日時 平成27年9月22日(火・休) 9:30～16:30
- (2) 会場 米子市公会堂(米子市角盤町2-61)
- (3) 主催等 主催：手話パフォーマンス甲子園実行委員会  
共催：鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- (4) 内容
  - ア 出場チーム演技(20チーム。手話を使ったダンス、歌唱、演劇、落語など。)  
司会：早瀬憲太郎さん(2015年3月までNHK「みんなの手話」に講師として出演)  
今井絵理子さん(「SPEED」「ERIHRO」メンバー、2010年NHK「みんなの手話」司会)
  - イ ゲスト演技  
HANDSIGN(ハンドサイン：手話とダンスを融合させたパフォーマンスグループ)
  - ウ 審査発表、表彰、総評
- (5) 来場者数 約1,550名(サテライト会場等を含む。)

### 2 審査結果

- (1) 審査結果
  - ア 優勝 奈良県立ろう学校[奈良県](5名：演劇) ※昨年：審査員特別賞  
「イマジン」をテーマに、ろうの世界を身体表現で伝え、会場の感動を誘った。



<表彰式>



<演技>

- イ 準優勝 三重高等学校、松阪工業高等学校、相可高等学校<sup>おうか</sup>[三重県](6名：ダンス)  
※昨年：第3位
- ウ 第3位 クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス[東京都](8名：歌・ダンス)
- エ 審査員特別賞 田鶴浜高等学校<sup>たつるはま</sup>[石川県](5名：演劇・歌) ※昨年：優勝
- オ 全日本ろうあ連盟賞 奈良県立ろう学校[奈良県]
- カ 日本財団賞 奈良県立ろう学校[奈良県]、鳥取聾学校[鳥取県](6名：演劇・歌)
- (2) 審査方法
  - ・ろう者の審査員3名：「手話の正確性・わかりやすさ」「演出力・パフォーマンス度」を審査
  - ・聞こえる人の審査員3名：「総合的な表現力」を審査
- (3) 表彰関係
  - ア 優勝チームに優勝旗と賞状、選手個人に金メダル(砂のレリーフ)と副賞(タブレット型端末)を授与。  
あわせて全日本ろうあ連盟から「全日本ろうあ連盟賞」を、日本財団から「日本財団賞」を授与。



- イ 準優勝チームに盾、賞状及び副賞（鳥取県特産品）、個人に銀メダルを授与。
- ウ 第3位のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）、個人に銅メダルを授与。
- エ 審査員特別賞のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）を授与。
- オ 鳥取県内の最上位チームに、日本財団から「日本財団賞」を授与。
- カ 出場選手全員に、鳥取砂丘の砂を使ったフォトスタンドを進呈。

#### (4) 出場チームの状況

応募 47 チームから選出された予選通過 19 チームと開催地枠 1 チームの計 20 チームが出場  
 北海道：1、東京都：3、神奈川県：2、石川県：1、愛知県：1、山梨県：1、三重県：2、  
 京都府：1、大阪府：1、奈良県：1、鳥取県：3、福岡県：1、熊本県：1、沖縄県：1  
 計 20 チーム（14 都道府県）

### 3 佳子内親王殿下の御臨席

大会には佳子内親王殿下に御臨席いただいた。開会式においておことばを賜るとともに、全チームの演技を御覧いただいた。佳子内親王殿下の初めての手話によるおことばをいただいたこともあって、大会後、全国のメディアで多く取り上げられた。

大会前日の交流会においては、各出場チームの代表者と御歓談いただいた。



<佳子内親王殿下おことば>



<交流会の様子>

### 4 その他

- (1) 大会前日には米子全日空ホテルにおいて交流会を開催した。
- (2) 大会の様子について、公式チャンネル（YouTube）にて生中継（ライブ配信）を実施した。
- (3) ホールでの観覧は入場自由としていたが、開場後間もなく場内満席となり、入場できない方々がでてきたため、前庭広場にモニターを設置するとともに、米子市福祉保健総合センター「ふれあいの里」にサテライト会場を設営し、大会の様子を放映した。
- (4) 前庭に「あいサポート・よなごマルシェ」を開設し、障がい福祉サービス事業所及び米子商工会議所青年部から 10 店舗が軽食（やきそば、クレープ等）やお菓子等を販売した。
- (5) 1階ホワイエで、鳥取聾学校写真部の作品のパネル展示、公式グッズの販売、鳥取県観光PRブースを実施した。
- (6) ゲストパフォーマーであるハンドサインの楽曲「♪友達」を本大会の公式ソングに採用し、大会のフィナーレで、出場者等とともに手話を交えて歌を楽しんだ。
- (7) JR米子駅におもてなしブースを設置し、手話通訳スタッフとともに会場案内等を行った。
- (8) 会場総合受付及びJR米子駅おもてなしブースに音声文字変換システムのタブレットを設置し、聴覚障がい者への対応の充実を図った。

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿  
(平成28年度第1回)

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠 (代理：敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部長	藪田 千登世	出
委 員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長	戸羽 伸一	出
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	欠
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	出
	鳥取県教育委員会事務局 教育次長	寺谷 英則	出
	鳥取県高等学校長協会 会長	依藤 典篤	〔 副会長 尾室 真郷 〕
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	山内 晃	出
	鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子	出
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
事務局	障がい福祉課長	小林 真司	\
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	明場 達朗	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	岡村 弘美	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	